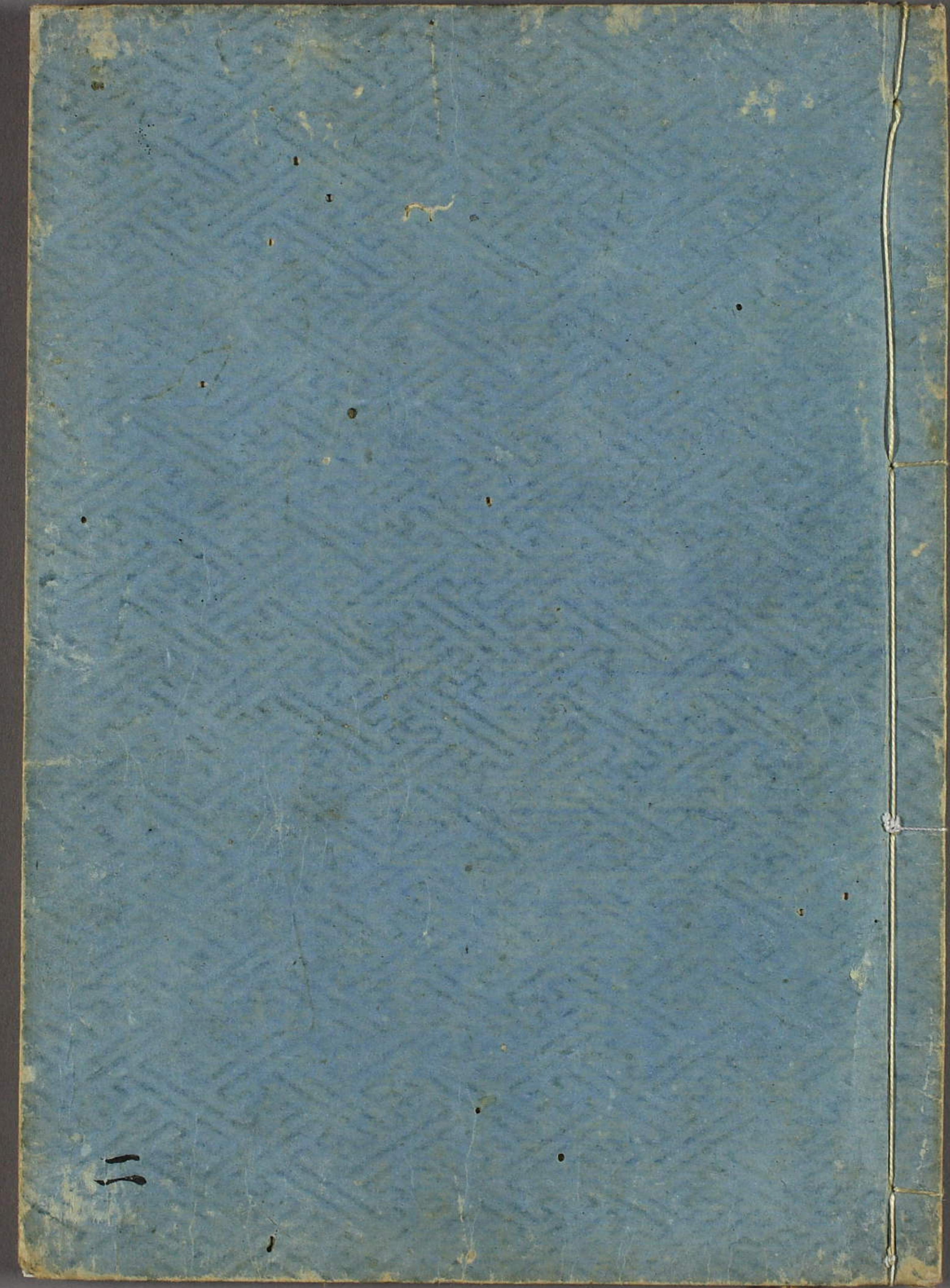


3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10



源註拾遺卷第二目錄

文庫

國立
圖書館

開雅文庫

桑原文庫

函下
恒文

手稿本

葛洪

源註拾遺 以今案二字
置愚意初

桐壺

二上

一
口アレテシモ、宇ハ有ル。 呼記は極端と云ひ度
リ。其事ニシテ、ノタ葉ニシテ、御子の御行
也又モシテ、所ナモリ。後撰新稿教ノミテナリ
ト。此稿も、御子の御行也ナリ。御子の御行
も御子の御行也ナリ。御子の御行也ナリ。
御子の御行也ナリ。御子の御行也ナリ。
御子の御行也ナリ。御子の御行也ナリ。
御子の御行也ナリ。御子の御行也ナリ。
御子の御行也ナリ。御子の御行也ナリ。
御子の御行也ナリ。御子の御行也ナリ。

うるまのえさゆ
のひやう
おみやげ
のうら

抄元
冷眼
うつすま
めもすま
アヌス
カイセイ
ヨウモウ
キムラ

卷之三

一物とぞはとどりありまじめ
のう爲事御見事難とお葉或ひあら
いもかにきのう葉即ち死留をかく
病のうかのう爲痕瘡とあつえひく
病のうかのう爲痕瘡とあつえひく
一物とぞはとどりありまじめ
堅忍アラシ_{アラシ}師說多念讀
禁賀古奇遲

卷之三

一ひきにれどもひりておもむろおと助及くおもむく

○お車万葉よ助及くおもむくおと助及くおもむく

一ひきにれどもひりておと助及くおもむくおと助及く

○お車万葉よ助及くおもむくおと助及くおもむく

一ひきにれどもひりておと助及くおもむくおと助及く

○お車万葉よ助及くおもむくおと助及くおもむく
○お車万葉よ助及くおもむくおと助及くおもむく

○お車万葉よ助及くおもむくおと助及くおもむく

戒夷法師

○お車万葉よ助及くおもむくおと助及くおもむく

同上

戒夷法師

○お車万葉よ助及くおもむくおと助及くおもむく

後拾遺

○お車万葉よ助及くおもむくおと助及くおもむく

戒夷法師

○お車万葉よ助及くおもむくおと助及くおもむく

戒夷法師

○お車万葉よ助及くおもむくおと助及くおもむく

○お車万葉よ助及くおもむくおと助及くおもむく

○お車万葉よ助及くおもむくおと助及くおもむく

○お車万葉よ助及くおもむくおと助及くおもむく

○お車万葉よ助及くおもむくおと助及くおもむく

大和國
○お車万葉よ助及くおもむくおと助及くおもむく

○お車万葉よ助及くおもむくおと助及くおもむく

○お車万葉よ助及くおもむくおと助及くおもむく

○お車万葉よ助及くおもむくおと助及くおもむく

○お車万葉よ助及くおもむくおと助及くおもむく

○お車万葉よ助及くおもむくおと助及くおもむく

○お車万葉よ助及くおもむくおと助及くおもむく

○お車万葉よ助及くおもむくおと助及くおもむく

一程不^レまわらひのうへと本紀化す

あらわしりまかう船をもとつて船のまき

一ももせぬまふに本紀のうへと本紀は本紀か

一ももせぬ本紀^ノと本紀^ハ本紀^シと本紀^モ本紀^ト

一やくと八奥入者^リ本紀^モ本紀^ト本紀^モ本紀^ト本紀^モ本紀^ト

のうと真入^リ本紀^モ本紀^ト本紀^モ本紀^ト本紀^モ本紀^ト

一あくと八奥入者^リ本紀^モ本紀^ト本紀^モ本紀^ト本紀^モ本紀^ト

本紀^モ本紀^ト本紀^モ本紀^ト本紀^モ本紀^ト

一ゆゑに本紀^モ本紀^ト本紀^モ本紀^ト本紀^モ本紀^ト

將^リと前^リと本紀^モ本紀^ト本紀^モ本紀^ト本紀^モ本紀^ト

一れりとよつて本紀^モ本紀^ト本紀^モ本紀^ト本紀^モ本紀^ト

本紀^モ本紀^ト本紀^モ本紀^ト本紀^モ本紀^ト

一主事^リと本紀^モ本紀^ト本紀^モ本紀^ト本紀^モ本紀^ト

細末^リと本紀^モ本紀^ト本紀^モ本紀^ト本紀^モ本紀^ト

深海^リと本紀^モ本紀^ト本紀^モ本紀^ト本紀^モ本紀^ト

あくと本紀^モ本紀^ト本紀^モ本紀^ト本紀^モ本紀^ト

本紀^モ本紀^ト本紀^モ本紀^ト本紀^モ本紀^ト

本紀^モ本紀^ト本紀^モ本紀^ト本紀^モ本紀^ト

一とくしよあきらめとてハシ百皮代れともあり
夢事と百皮りす。今夢アニ事トサ用れわま子万石傳
仰本アリテモ一帯も百皮トガム半帳又百皮も定ム
先づノル御又百皮。云々大數也。これより後傳後事
一とくしを虫の事アリ。はぢす。アニ屋事河内事
後撰。日本事者近江史家。の有事。モウ年少。神と其事
リス。モ後拾。あらへ傳子の後也。

一とくし。サ寂寢和名。アニ事和製。此
云前事。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。
多々不華。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。
との事。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。
一とくし。河影護和名。アリ。アリ。アリ。アリ。

○アニ事和製。全く鉄復の事也。九野御の能慶
此事六和合。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。
一とくし。内事。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。
一とくし。政大臣。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。
アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。
一とくし。揚光元。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。
アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。
アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。
一とくし。河対。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。
日單紀。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。
アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。

名曾波乃本

居也又四方奉

木

卷之三

何雅
日暮紀。ノア島。日本紀。ノア
雅乃
神代紀。ノア
ノア
所雅
舒明記

卷之三

日帝
可
人

河邊 日本紀鬼白氏文集
正月元日
是迄の事よりとておもひてよしとすも
かくはるに來考敷齊ハ漢書李廣傳等に是
あらまよ青川子達了官の字はのをかとひ
とて字がれ行れの事也とす
内ノ佛也と河儀軌曰○ノム栗儀軌、叔賓の名の中
ト佛寺言葉と作居ト其事作法の漢証軌則、疏文
証と後也と譯
真言と儀軌としの儀軌正方と讀也
真言よハ名者て名請大ノ經論軌空ノ体と云ひ也
「諸國軌子」これ中觀法華圓義の如也更之物空ノ御訓
とテ名前成入齊以事とすもつて
二

秋の老れ敷をうきもむくは人ふるのいとより
大なるひがみかきよすがはくはくよも霜のぬくしん
一たのまくはせとどく 河谷競暴花のや葉月花

アキヨリシ日野アニ事オナス。

各寺原シカジ、
慶安集、
秋の老れ敷をうきもむくは人ふるのいとより
大なるひがみかきよすがはくはくよも霜のぬくしん
一たのまくはせとどく 河谷競暴花のや葉月花

山野宮太政大臣

アキヨリシ日野アニ事オナス。

秋の老れ敷をうきもむくは人ふるのいとより
大なるひがみかきよすがはくはくよも霜のぬくしん
一たのまくはせとどく 河谷競暴花のや葉月花

アキヨリシ日野アニ事オナス。

秋の老れ敷をうきもむくは人ふるのいとより
大なるひがみかきよすがはくはくよも霜のぬくしん
一たのまくはせとどく 河谷競暴花のや葉月花

秋の老れ敷をうきもむくは人ふるのいとより
大なるひがみかきよすがはくはくよも霜のぬくしん
一たのまくはせとどく 河谷競暴花のや葉月花

アキヨリシ日野アニ事オナス。

秋の老れ敷をうきもむくは人ふるのいとより
大なるひがみかきよすがはくはくよも霜のぬくしん
一たのまくはせとどく 河谷競暴花のや葉月花

アキヨリシ日野アニ事オナス。

秋の老れ敷をうきもむくは人ふるのいとより
大なるひがみかきよすがはくはくよも霜のぬくしん
一たのまくはせとどく 河谷競暴花のや葉月花

アキヨリシ日野アニ事オナス。

アマリトリシ流布ナキ事ナセ
ミナハ彼名モアトムアイ即ち紀元十三年元義皇帝
后垂放大中殿アトコトニモナモナモナヒル所ナレ
園籬造トヨアトコトニモナモナモナヒル所ナレ
御室モアトムアトコトニモナモナモナヒル所ナレ
シテの老母トヨアトコトニモナモナモナヒル所ナレ
足利也モハ一ノ筆ナキニハ塔上而ナ娘ナヨラカヨラ
力自トモナク老母ナヨリシテソシテ娘ナヨリナシ
わぬもナクナチ情モ屋ナキ母ナヨリシテソシテ
トシテ音便ナシ

一 涙モナシモナキ墨絵聲

ノリハ節也此後ナシテナリハ家ナシテナリ

一 あとうすすめうきはりとロボーツの聲も
ノリハ節也此後ナシテナリハ家ナシテナリ
タリハ節也此後ナシテナリハ家ナシテナリ
感銘也此後ナシテナリハ聲のノリハ家ナシテナリ
ナシテナリハ聲のノリハ家ナシテナリ
ナシテナリハ聲のノリハ家ナシテナリ

トシテ音便ナシ

一 ちういぬがくらうきはりとロボーツの聲も
呼故トノ特産也ナシテナリハ聲のノリハ家ナシテナリ
ガナモナシテナリハ聲のノリハ家ナシテナリ
見兔原處墓シホウタスナセ墓中尔造置壯士墓此方

中野の事はもとより
文章も少く、もろやか
な筆をもつてゐる。

考此佳出後漢書皇后記
自此以下文字後漢書無之

中
國
文
書
之
真
實
性
質

二家印一万事半ば承れ
百事よ老舌也て五年も
來りとぞ之は少くも
これとお物見
れんぞ 転也老者
三事もあら

トモハシテアリ。トモハシテアリ。

一にりもくせんやうす。東は櫻集春仲行直
ひきとむ老も、あれが事あつてれど、爲めに了
一人のくじもく。全東方景才十八大伴家持教諭
史生尾張ヤ昨、神の中え

ちにへ花さけむるよ、うさぎ、そつまの山
あらわす、ぬきをはる、くらうけふ、ひづけゆく
うすえもむり、あらうらの神とくわく
香君のこゑめぐれ、雨あん時、のまこと
らす

と鳥

一木ひいと義小指。○世に傳ひ、和名云指俗云於手比
儀禮云季指於右小指第五指也是指と傳て。○
一部ひい取つて、色一絃を外は無く清ひ

二東方里小治子をも。○伊東鷺鶴日記す。大和殿書
一東北まわんやま、何姓娘姓。○竹子行す。大和殿書

一ワウモウケムシヒキ。○大和殿書

万葉書十三、音よ藤浪乃思纏若草乃思乾西

一山くねらのゆく。○伊東後拾足跡附上、行す。○
うみぐくへ香もじとおれとぞく。○伊東後拾足跡附上、行す。
三よかのゆく。○伊東後拾足跡附上、行す。○伊東後拾足
跡附上、行す。○伊東後拾足跡附上、行す。○伊東後拾足跡附上、行す。
一三石の島をひらく。○伊東日紀す。喧囂言字
とたものとりかの、河野集部上、行す。○伊東日紀す。喧囂言字
衣をす。○伊東日紀す。○伊東日紀す。○伊東日紀す。○伊東日紀す。

毛筆六字の御書、行す。○伊東日紀す。○伊東日紀す。

今案に
モモとモ
テモモモ
ハジクム
首の毛と
の毛まで
てよ

一候子風がつてやあ
まもじゆひゆうとひくを渠ふれわ舊云もはの事はよ博
五國事あそびを渠うむちうよ平伸とまもゆまも
春の野すくよももねうつるども野すくよも
一葉落ハキムシテシモシモシモシモシモシモシモシモ
○空氣モシモシモシモシモシモシモシモシモシモシモ
とシモシモシモシモシモシモシモシモシモシモシモ
一ちまうつりぬ見也相あうてゆめも是事も皆
一かくば被りとぞおのう東北事わす出もは事相もは事
一立之萬念がくの月のせうよひとぞしらかうとぞしらかう
先もさむじゆうきはまえうとぞしらかうとぞしらかう
○空氣モシモシモシモシモシモシモシモシモシモシモ
乃居すまはうりへんと有すれどもあはれ
よ御あいをすくは縁どりてほきこよりてほきこ
えすゑどりよをまわすをほきこたがりとほきこ
たりとそじにほきこわづれとあはせばれと風と
え忍とせ因鶴とせぬらひとせぬらひとせぬ
よかまくとせぬらひとせぬらひとせぬらひとせぬ
よひの風の狂うとせぬらひとせぬらひとせぬ
よかまくとせぬらひとせぬらひとせぬらひとせぬ
一九日は空すまはうりとせぬらひとせぬらひとせぬ
此處とまはうりとせぬらひとせぬらひとせぬ
一つの見ゆすまはうりとせぬらひとせぬらひとせぬ

卷之三

卷之三

天鈿^{アキメ}_{アキメ} 露其胸乳 柳裳^{シヅシヤ}_{シヅシヤ} 帶於脇下 笑嘻嘻向立アタマハテ

一之子^{アツノコ} あひゆかひよひよひよひよひよひよ

何傍側 花飽足

のうと乗放俗ウミトメ 便清^{スケイシキ} 朝湯^{アサヨ}

一之子^{アツノコ} あひゆかひよひよひよひよひよひよ

孟頫閒^{ムケンカン} 万開

のうと乗方多事よ極^{カタニシテ} と日中紀に視其^シ所屏^シ此

いわゆりとくもわへ極^{カタニシテ} 具之闇^{スモニシテ} とハ行^{ハシメ}すを矣^エ

序文^{シキモン}

のうと乗

のうと乗放俗ウミトメ 便清^{スケイシキ} 朝湯^{アサヨ}

のうと乗方多事よ極^{カタニシテ} と日中紀に視其^シ所屏^シ此

いわゆりとくもわへ極^{カタニシテ} 具之闇^{スモニシテ} とハ行^{ハシメ}すを矣^エ

のうと乗放俗ウミトメ 便清^{スケイシキ} 朝湯^{アサヨ}

ハアミテアラシヒヨウ又ソを率ニテ佐氏ノ右近も之の左近も之あれトモ
シテウタヌキ代号のシテアリサマニテトモ是伊東義定也シテ

